

注目ポイント！

日本最後の清流「四万十川」の魅力を最大限に活かした、自然保護・再生による、付加価値の高い観光地への取り組み。



人口38,000人の四万十市に年間725,000人(H17)の来訪者
環境・体験型修学旅行生は3校412人(H5)から32校4,400人(H17)と10倍に！



壮大で美しい四万十川の風景

コラム

「四万十川を守ることこそまちづくり」であると考え、平成9年に2県12市町村の流域民間団体の連携を発案し「四万十川流域住民ネットワーク」を立ち上げた。

美しい四万十川を未来に残すため、流域全体をフィールドとし「遊び」や「体験」を通じた広域連携・交流や環境学習、青少年の健全育成を実行している。



四万十川流域住民
ネットワーク代表世話人
西内 燦夫氏

これまでの経緯

- 昭和58年(1983) NHKの特集番組で『日本最後の清流・四万十川』と紹介され、全国に「四万十川＝清流」のイメージが定着した。
- 昭和63年(1988) 「四万十川水泳マラソン」が開始される。
- 平成7年(1995) 高知県が、「四万十川総合プラン21」を策定。
- 平成9年(1997) 四万十川の豊かな自然を守るのは地域住民の使命と考え、行政のみに『川づくり』を任せるのではなく民間の団体が協力して官民一体で『四万十川』を守ることと、その意志を持った『人づくり』を目的とした四万十川流域住民ネットワークが設立される。
- 平成11年(1999) 『四万十源流のホタルの里』をキャッチフレーズとした、緑豊かな自然を探訪できる散策路整備が開始される。
- 平成13年(2001) 「水に関するNPO」の連携組織である「四国河川文化ネットワーク」が発足する。
- 平成16年(2004) 「四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例(四万十川条例)」を制定する。四万十川水際探偵団が発足する。

主な取り組み

四万十川流域住民ネットワーク

四万十川全域を美しいままの川として後世に残すことと、その意志を持った人づくりを行うため、上流から下流までのグループや住民が一丸となった相互理解と相互支援、四万十川流域における将来のリーダー育成、より多くの女性参画、行政との連携を統一目標としたさまざまな活動を展開。



地域の特徴を活かした特産物開発にも取り組む

四万十川水泳マラソン・カヌーマラソン

「四万十川の鮎と一緒に泳いでみませんか」をキャッチフレーズに「四万十川」を泳ぎ下る水泳マラソン(主催:四万十市体協)等の各種イベントは、自然保護の啓蒙と、健康な人づくり、地域の活性化と交流促進を目的に開催。先見的な「健康と観光」を両立させる取り組みで「四万十川ファン」は増大。



水泳マラソン

四万十川水際探偵団・水中探偵団

「水際探偵団」は、清掃活動等を中心とする自然保護活動、「水中探偵団」は子供達への四万十川や流域の自然や暮らしを知るきっかけの場。ともに四万十川流域住民ネットワークが主催。地域の誇りである「四万十川」への意識向上と広域交流に寄与。



「水際探偵団」の清掃活動

「四万十かいどう」プロジェクト

官民一体で魅力ある観光周遊のルートを選定するとともに、各地域の特性を活かした市町村の花で景観向上を目指す「花かいどう」プランを策定。四万十川沿いのサイクリングロードでは小中学生が菜の花による美しい景観づくりを展開。



沈下橋を渡るサイクリングロード

問い合わせ先

四万十川流域住民ネットワーク
四万十川広域観光推進協議会
Tel : 0880 - 34 - 4333

<http://www11.ocn.ne.jp/~shimanto/>

<http://www.cciweb.or.jp/nakamura/>